令和 6 年〇月〇日

秋田県農業再生協議会 会長 **佐竹 敬久** 様

令和 4 年度のみ申請 : 4 年度
令和 5 年度のみ申請 : 5 年度
令和 4・5 年度申請 : 5 年度

所在地 **秋田県山王 4 丁目 1-1**
取組実施者名 **秋田総合肥料(株)**
代表者氏名 **代表取締役 秋田 太郎**

令和〇年度肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

肥料価格高騰対策事業実施要領 (令和 3 年 12 月 20 日付け 3 農産第 2156 号農林水産省農産局長通知) 第 13 の 2 の規定に基づき、別添のとおり報告する。

(添付資料)

- ・参考様式第 13-2 号
- ・参考様式第 14 号
- ・その他農政局長等が必要と認める書類

肥料価格高騰対策事業取組実施状況報告書

第1 取組実施者名

秋田総合肥料(株)

第2 事業の取組概要

参加農業者数 (件)	取組面積 (ha)
6	273

第3 取組実績

取組メニュー	取組の実績
ア 土壌診断による施肥設計	土壌診断を行い施肥設計を行った結果、P、Kなどが過剰な場合は1～2割減肥を行っている。取組前に比べ土壌診断件数が○割増加した。
イ 生育診断による施肥設計	生育診断を行い、施肥設計を○件行った。リモートセンシングを利用した生育診断を実施中。
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	これまでの栽培歴を低投入型の施肥量に変更したことで、管内の農家は全て当該肥料に切り替えたため、成分値で約5%の削減につながったと推測される。
エ 堆肥の利用	基肥の一部を化学肥料から堆肥に転換し、転換したほ場では取組前から堆肥利用が○%増加している。
オ 汚泥肥料の利用（下水汚泥等）	参加農業者により約○○tの汚泥肥料の購入があった。窒素施肥量で換算すると、○kg/10a相当の化学肥料が代替されたと考えられる。
カ 食品残渣など国内資源の利用（エとオ以外）	○○の残渣を持ち込んで圃場にすき込んで利用した（取組件数0件）。
キ 有機質肥料（指定混合肥料等を含む。）の利用	有機質原料を含む肥料について、約○割の参加農業者が取組を実施した。その結果、化学肥料の施肥量が概ね○割削減できた。
ク 緑肥作物の利用	緑肥種子の販売量が例年から○割増加。緑肥の鋤き込みを行った農家では、緑肥の鋤き込みにより、窒素施肥量が○kg/10a削減された計算となる。
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	○○などの品目において、肥料施用量の少ない品種の作付に○件の参加農業者が取組み、化学肥料の低減に繋がった。
コ 低成分肥料（単肥配合を含む。）の利用	低成分肥料（P、Kが減）の○○（銘柄名）に切り替えて利用が取組前より○%増加した。
サ 可変施肥機の利用（ドローンの活用等を含む。）	可変施肥機能付き田植機を○台新たに導入し、合計○台が稼働している。

シ 局所施肥（側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等）の利用	局所施肥機の利用面積が〇haと、取組前から〇%増加している。
ス 育苗箱（ポット苗）施肥の利用	育苗箱専用の〇〇（肥料銘柄）の販売量が約〇割増加したため、地域内の施肥体系と比較すれば、基肥・追肥で合わせて約〇割の削減になったと見込まれる。
セ 化学肥料の使用量及びコスト節減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し（ア～スに係るものを除く。）	今般の肥料価格高騰を受け、〇〇〇〇（肥料銘柄）より低価格の□□□□の取り扱いを増やしたところ、例年より販売量が約〇割増加した。その価格差から、約 〇%のコスト節減の効果があったと推察される。
ソ 地域特認技術の利用 （ 稲わらのすき込み ）	稲わらのすき込みを行うほ場の面積は、〇ha 拡大（維持）している。

(注) 参加農業者が、実施期間を通じてどのような取組を行ったか、また、その結果として、取組前と比べてどの程度の化学肥料の低減が図られたかを、使用記録等を参照し、できる限り定量的に記入してください。

第4 化学肥料の使用量の低減に向けて継続的に取り組むための取組計画

- ・ 土壌分析点数の増加による、土壌診断の強化
- ・ 生育診断の分析点数増加による、こまめな生育状況把握
- ・ 緑肥作物の販売拡大・利用拡大促進
- ・ 局所施肥や可変施肥などの活用による、施肥効率の向上
- ・ 農協と連携した、低投入型の施肥体系の導入
- ・ 堆肥供給量の増加に向けた、近隣の畜産業者や肥料製造業者等との連携強化
- ・ 有機質肥料の販売強化・利用拡大